

箕面都市開発株式会社

平成26年度

通期業績予想

〔上半期決算反映版〕

平成26年12月

箕面都市開発株式会社

上半期決算に基づく通期業績予想の概要

1 平成26年度予算と通期業績予想を比較すると

- 予算編成時の見込みに比べ、売上高は上回りました。また文化・交流センターにカラーコピー機や自動券売機を導入したことにより減価償却費が増加し、営業利益、経常利益、当期純利益とも**予算を下回りますが**、減価償却費はキャッシュフローへの影響を与えないため、経営内容を判断するポイントとなる期末資金残高への影響はなく、**経営に問題はありません**。

2 調停条項と比較すると

- 期末資金残高について、**調停条項の想定推移を上回る見込み**です。
- 平成24年度末に**債務超過は解消**され、純資産額は、引き続き**調停条項の想定推移を大幅に上回る見込み**です。
- 本業の利益を示す営業利益など、いずれの利益ベース(営業利益・経常利益・当期純利益)においても、**調停条項を上回る見込み**です。

3 今後の展望

- 今期は売上高が予算を上回る他は各利益ベースで予算を下回っていますが、調停条項は各利益ベースとも上回る経営予想となっています。
- 平成27年度4月より駐車場事業の受託を開始するとともに、平成26年度11月より新規不動産事業も開始され、今後は**売上拡大の要因が増えたことによる増収増益が見込まれます**。

平成26年度

通期業績予想

1. 平成26年度通期業績予想

(単位:千円・%)

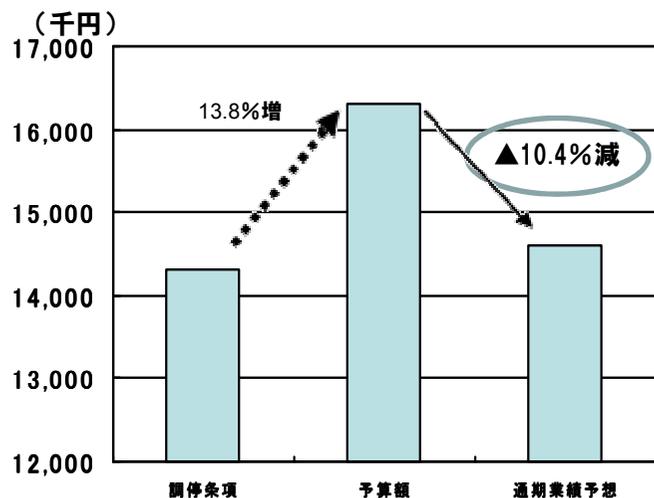
	平成26年度			平成26年度通期業績予想との比較			
	調停条項	予算額	通期業績予想	調停条項		予算額	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	108,000	110,000	111,116	3,116	2.9	1,116	1.0
営業利益	14,320	16,300	14,609	289	2.0	▲1,691	▲10.4
経常利益	12,421	14,252	12,538	117	0.9	▲1,714	▲12.0
当期純利益 (※)	6,104	7,605	6,607	503	8.2	▲998	▲13.1
期末資金残高	86,481	96,510	97,077	10,596	12.3	567	0.6
純資産額	9,700	19,962	18,964	9,264	95.5	▲998	▲5.0

(※)法人税等調整額を除いています。
法人税等調整額とは…税務上の損金、益金で算定される課税所得と企業会計上の費用、収益で算定される当期純利益との差額を調整するものです。

予算策定後、文化・交流センター利用者の利便性の向上や効率化のためカラーコピー機や自動券売機を導入しました。これにより減価償却費が増加し各利益ベースでは予算を下回りましたが、期末資金残高は減価償却費の影響を受けないため予算を上回りました。

※減価償却費とは…長期間にわたって使用される固定資産への設備投資に要した費用を一定期間に配分する会計処理のことです。

2. 平成26年度営業利益（本業利益）の比較



予算額を下回りましたが、調停条項で示された数値は上回る予定となっています。

要因

売上高はほぼ予算通りであったもののカラーコピー機や自動券売機などの設備投資により減価償却費が増加したことによります。

3. 貸借対照表

(単位:千円)

	平成25年度		平成26年度 (平成26年9月30日現在)		増減額
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	
資産合計	510,543	100.0	511,202	100.0	659
流動資産	103,328	20.2	105,783	20.7	2,455
固定資産	407,215	79.8	405,419	79.3	▲1,796
有形固定資産	377,746	92.8	375,950	92.7	▲1,796
無形固定資産	296	0.1	296	0.1	0
投資その他の資産	29,173	7.1	29,173	7.2	0
負債合計	477,869	93.6	474,487	92.8	▲3,382
流動負債	28,086	5.9	24,619	5.2	▲3,467
固定負債	449,783	94.1	449,868	94.8	85
純資産	32,674	6.4	36,715	7.2	4,041
純資産(繰延税金資産除く)	12,356	—	18,964	—	6,608

*繰延税金資産とは・・・将来の会計期間に帰属すべき税金費用(損金)を当期に前払いしたと考え、これを繰延処理することにより生じる資産のこと

4. 決算実績と予算・通期業績予想の対比

(単位:千円・%)

	平成25年度 (予算)		平成25年度 (決算)		平成26年度 (予算)		平成26年度 (通期業績予想)		増減率	
	金額	売上高 利益率	金額	売上高 利益率	金額	売上高 利益率	金額	売上高 利益率	H25決算・ H26業績予 想対比	H26予算・ H26業績予 想対比
売上高	111,000	—	113,400	—	110,000	—	111,116	—	▲2.0	1.0
受託料収入	66,577	—	66,586	—	65,770	—	65,736	—	▲1.3	▲0.1
所有床賃貸収入	6,150	—	6,150	—	6,150	—	6,057	—	▲1.5	▲1.5
土地賃貸収入	21,600	—	23,640	—	21,600	—	21,600	—	▲8.6	0
受取手数料収入	2,483	—	2,789	—	2,480	—	2,784	—	▲0.2	12.3
文化・交流センター売上	14,190	—	14,235	—	14,000	—	14,939	—	4.9	6.7
営業利益	18,500	16.7	19,389	17.1	16,300	14.8	14,609	13.1	▲24.7	▲10.4
経常利益	16,552	14.9	17,152	15.1	14,252	13.0	12,538	11.3	▲26.9	▲12.0
当期純利益	—	—	14,514	12.8	—	—	—	—	—	—
当期純利益 (法人税等調整額除く)	8,531	7.7	10,823	9.5	7,605	7.0	6,607	5.9	▲39.0	▲13.1

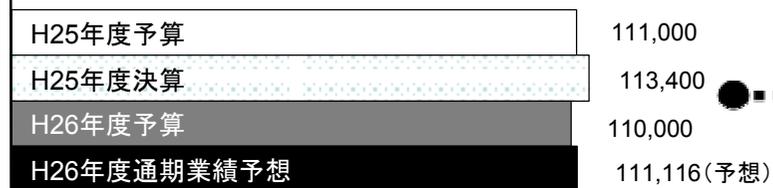
5. 売上高・利益ベースの推移

- ・平成25年度決算は、土地賃貸借契約の延長による増収や、人件費を柱とする歳出削減により、予算を上回る収益が確保できました。
- ・平成26年度は、予算時に比べ売上高は増加するものの、設備投資の減価償却費の増加により各利益ベースとも下回る予定です。

H25決算・H26予算と通期業績予想の比較・主要因

■売上高

(単位:千円)



決算比2.0%減

- ・一部の受託料収入の値下げ及び土地賃貸借契約の終了による売上の減少

予算比1.0%増

- ・文化・交流センターの利用料金の増加

■営業利益



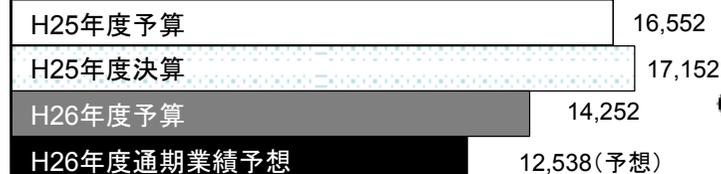
決算比24.7%減

- ・みのおサンプラザ1号館ビルの耐震化への対応に伴う人件費の増加

予算比10.4%減

- ・文化・交流センターへのカラーコピー機や自動券売機導入に伴う減価償却費の増加。

■経常利益



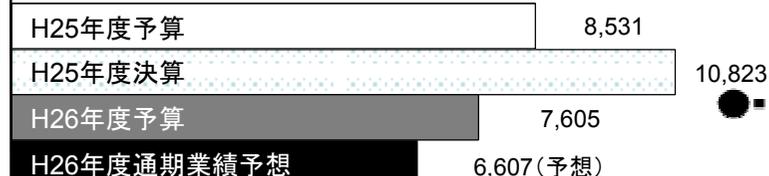
決算比26.9%減

- ・営業利益の減益による

予算比12.0%減

- ・営業利益の減益による

■当期純利益



決算比39.0%減

- ・経常利益の減益による

予算比13.1%減

- ・経常利益の減益による

参考1：経営内容を判断するポイント

■ 貸借対照表や損益計算書で経営判断することも必要ですが、新たな投資や臨時的な支出に大きく左右されます。

★調停条項の着実な履行を判断するポイント

- ① 期末にどれだけの資金残高があるのか
- ② 純資産額が増加しているのか

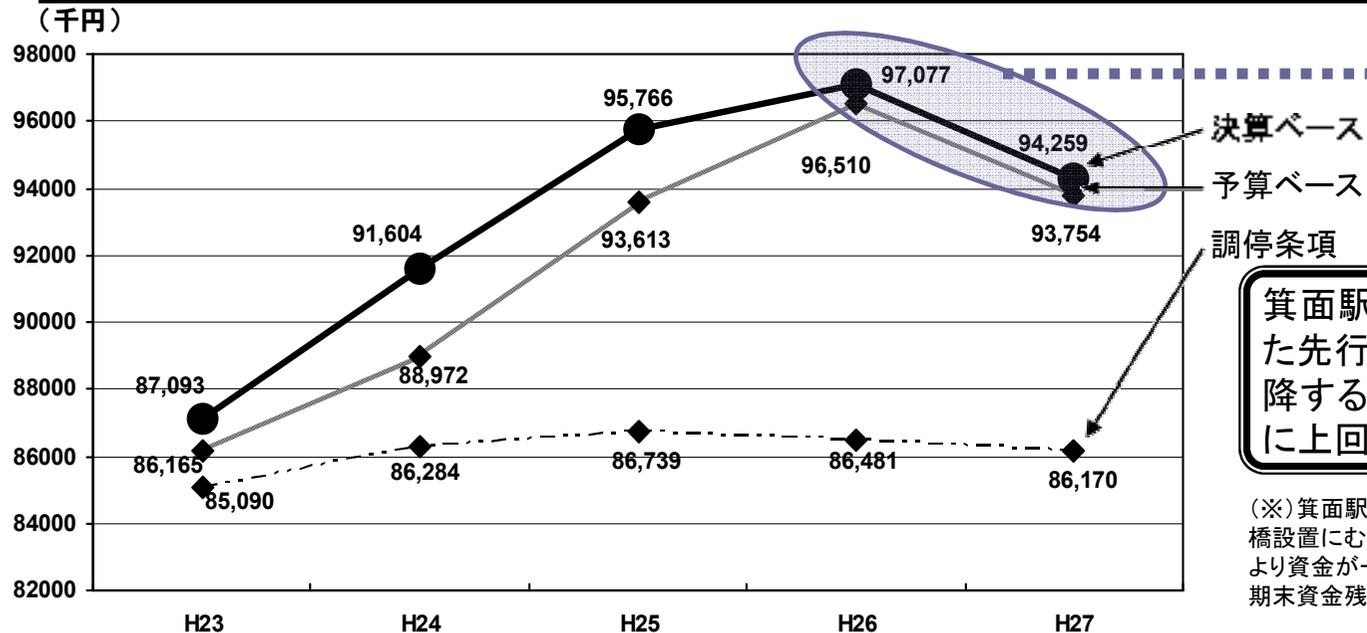
.....▶ 資金計画で判断することが適切

参考2：資金計画の見込み

(1) 期末資金残高の推移

(単位：千円)

	各年度の予算・決算実績			平成26年度上半期決算からの予測	
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
調停条項	85,090	86,284	86,739	86,481	86,170
予算ベース	86,165	88,972	93,613	96,510	93,754
決算ベース	87,093	91,604	95,766	97,077	94,259



箕面駅前駐車場・駐輪場の建替えを見据えた先行投資(※)により、平成27年度に一旦下降するものの、調停条項の推定推移を大幅に上回る予定です。

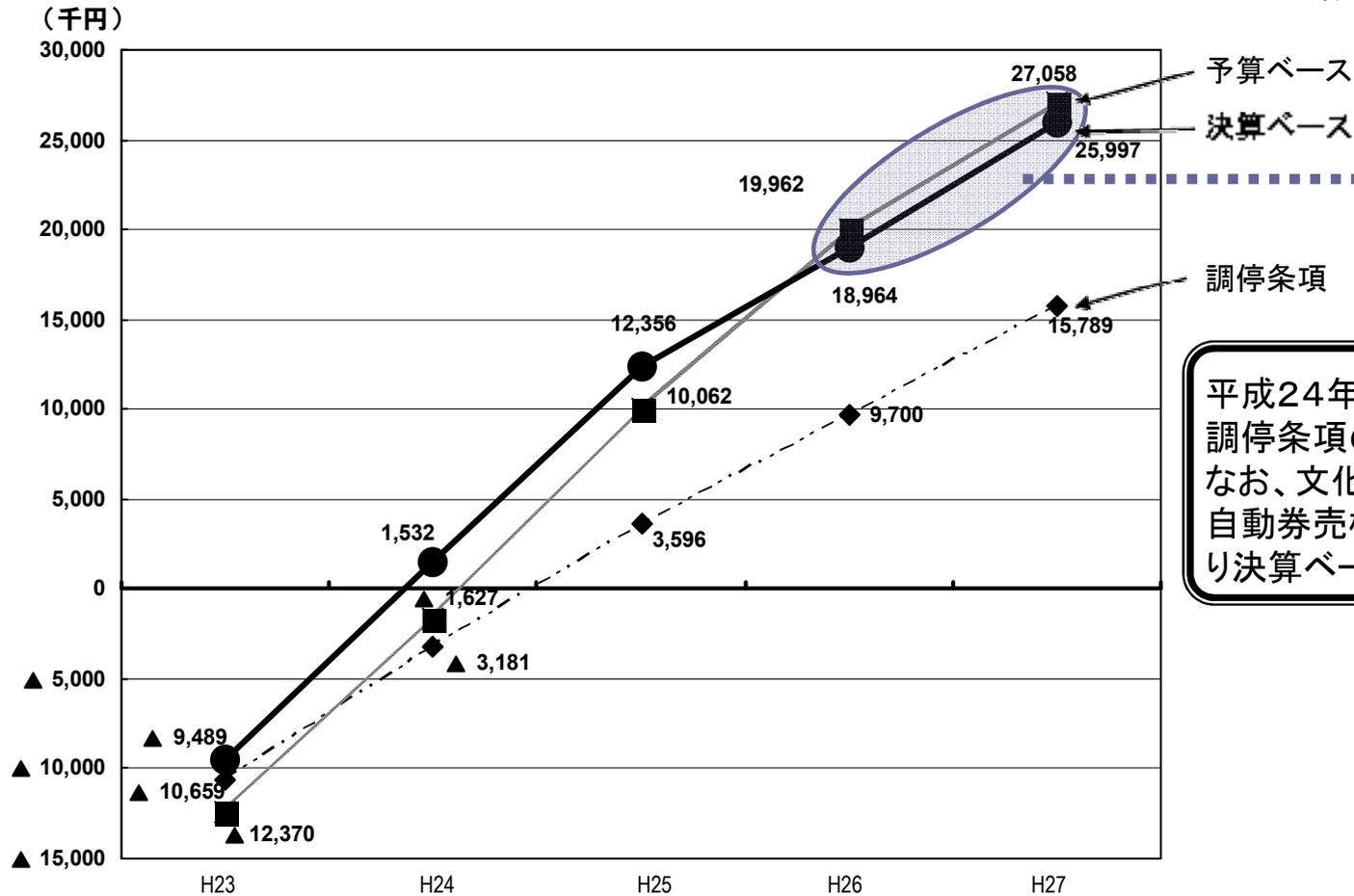
(※) 箕面駅前駐車場・駐輪場とみのおサンプラザ1号館ビル間の連絡橋設置にむけて、設置予定区域の区分所有権を取得しました。これにより資金が一時的に減少しますが、今後の事業化に向けた契約により期末資金残高が再び上昇の見込みです。

(2) 純資産額の推移

(単位:千円)

	各年度の予算・決算実績			平成26年度上半期決算からの予測	
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
調停条項	▲10,659	▲3,181	3,596	9,700	15,789
予算ベース	▲12,370	▲1,627	10,062	19,962	27,058
決算ベース	▲9,489	1,532	12,356	18,964	25,997

(各数値は繰延税金資産を除いています)



平成24年度末で債務超過が解消して以降は、調停条項の想定推移を大幅に上回る予定です。なお、文化・交流センターへのカラーコピー機や自動券売機導入に伴う減価償却費の増加により決算ベースでは、予算を下回っています。

参考3：事業別売上高の推移

(千円)

